

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成24年7月30日

【事業年度】 第17期(自平成23年5月1日至平成24年4月30日)

【会社名】 株式会社アスカネット

【英訳名】 Asukanet Company,Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 福田 幸雄

【本店の所在の場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【最寄りの連絡場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
決算年月	平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月	平成23年4月	平成24年4月
売上高 (千円)	4,072,777	4,505,798	4,545,351	4,497,319	4,485,458
経常利益 (千円)	637,787	546,828	628,239	732,463	737,467
当期純利益 (千円)	363,565	301,961	354,656	411,965	426,826
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	490,300	490,300	490,300	490,300	490,300
発行済株式総数 (株)	43,660	43,660	43,660	43,660	43,660
純資産額 (千円)	1,916,037	2,125,068	2,406,529	2,693,755	3,028,344
総資産額 (千円)	2,748,135	2,872,041	3,216,372	3,401,584	3,770,568
1株当たり純資産額 (円)	44,170.15	49,419.89	55,998.84	640.85	723.34
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額) (円)	1,700 ()	1,750 ()	1,750 ()	1,900 ()	2,000 ()
1株当たり当期純利益 金額 (円)	8,409.83	7,014.69	8,289.85	97.37	101.95
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	8,407.85				
自己資本比率 (%)	69.5	73.6	74.5	78.9	80.3
自己資本利益率 (%)	20.8	15.0	15.7	16.2	15.0
株価収益率 (倍)	16.8	6.3	8.3	8.4	7.3
配当性向 (%)	20.2	24.9	21.1	19.5	19.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	796,854	455,460	801,844	642,393	704,016
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	524,358	579,272	240,025	209,305	764,619
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	67,698	31,037	153,981	201,982	148,977
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	598,916	505,521	913,346	1,144,449	934,842
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (名)	239 〔123〕	256 〔133〕	249 〔137〕	260 〔137〕	269 〔128〕

(注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社が存在しないため、記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第14期、第15期および第16期は、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、また、第17期は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

5 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

- 6 当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）、
「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日
公表分）および「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第9号）平成22年6月
30日）を適用しております。
- 平成24年5月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行いました。第16期期首に当該株式分割が行わ
れたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益
金額を算定しております。

2 【沿革】

平成7年7月	遺影写真を中心とした画像処理及び通信出力サービス（メモリアルデザインサービス事業）を目的とし、資本金10,000千円にて広島市西区に株式会社アスカネットを設立
平成11年3月	メモリアルデザインサービス事業の拠点として、千葉市美浜区に関東支社を開設 米国カリフォルニア州にAskanet International, Incを設立し、アメリカ市場に進出（出資比率100%）
平成11年4月	メモリアルビデオの通信出力サービスを開始
平成11年10月	本社を広島市東区に移転し、旧本社に企画開発室を設置
平成12年1月	個人向け写真集作製サービス（パーソナルパブリッシングサービス事業）の企画開発を開始
平成12年9月	パーソナルパブリッシングサービス事業の生産拠点として、大阪市北区に大阪支社を開設
平成12年12月	パーソナルパブリッシングサービス事業の営業、マーケティング拠点として、東京都港区に東京支社を開設
平成13年2月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「マイブックサービス」を開始
平成14年4月	Askanet International, Incを清算
平成14年6月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「プロフォトブックサービス」を開始
平成15年8月	広島市安佐南区に社屋を取得し、プロダクトセンターを開設、大阪支社・企画開発室をプロダクトセンターに移転
平成15年10月	本社を広島市安佐南区に移転し、プロダクトセンターと統合 メモリアルデザインサービス事業において、「レタッチ（写真修正）サービス」を開始
平成16年3月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「マイブックデラックスサービス」及び「マイブックミニモバイルサービス」を開始
平成16年8月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「アートブックサービス」を開始
平成17年4月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
平成17年5月	東京支社を東京都港区虎ノ門から東京都港区南青山に移転し、ショールームを併設
平成17年6月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、アメリカ市場にて「Asukabook」ブランドでサービスを本格開始
平成17年8月	本社隣地に新社屋完成
平成18年11月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「オートアルバムサービス」を開始
平成18年12月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「マイブックエディタ3.0」をリリースし、「アートブックサービス」と「マイブックサービス」を統合
平成20年4月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「フォトゲットサービス」を開始 広島市安佐南区にメモリアルデザインサービス事業向け新社屋が完成し、同事業部が本社より移転
平成20年11月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「かんたんマイブックサービス」を開始
平成20年12月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「アスカブックメーカー」をリリース
平成21年3月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「アスカブックメーカー」をリリース
平成22年4月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「マイブックエディタ4.0」をリリース
平成23年1月	パーソナルパブリッシングサービス事業において、「アスカブックメーカー2」をリリース
平成23年2月	メモリアルデザインサービス事業において、「遺影バンクサービス」を開始
平成23年3月	特許出願権等を取得し、空中結像技術の研究（エアリアルイメージング事業）を開始

3 【事業の内容】

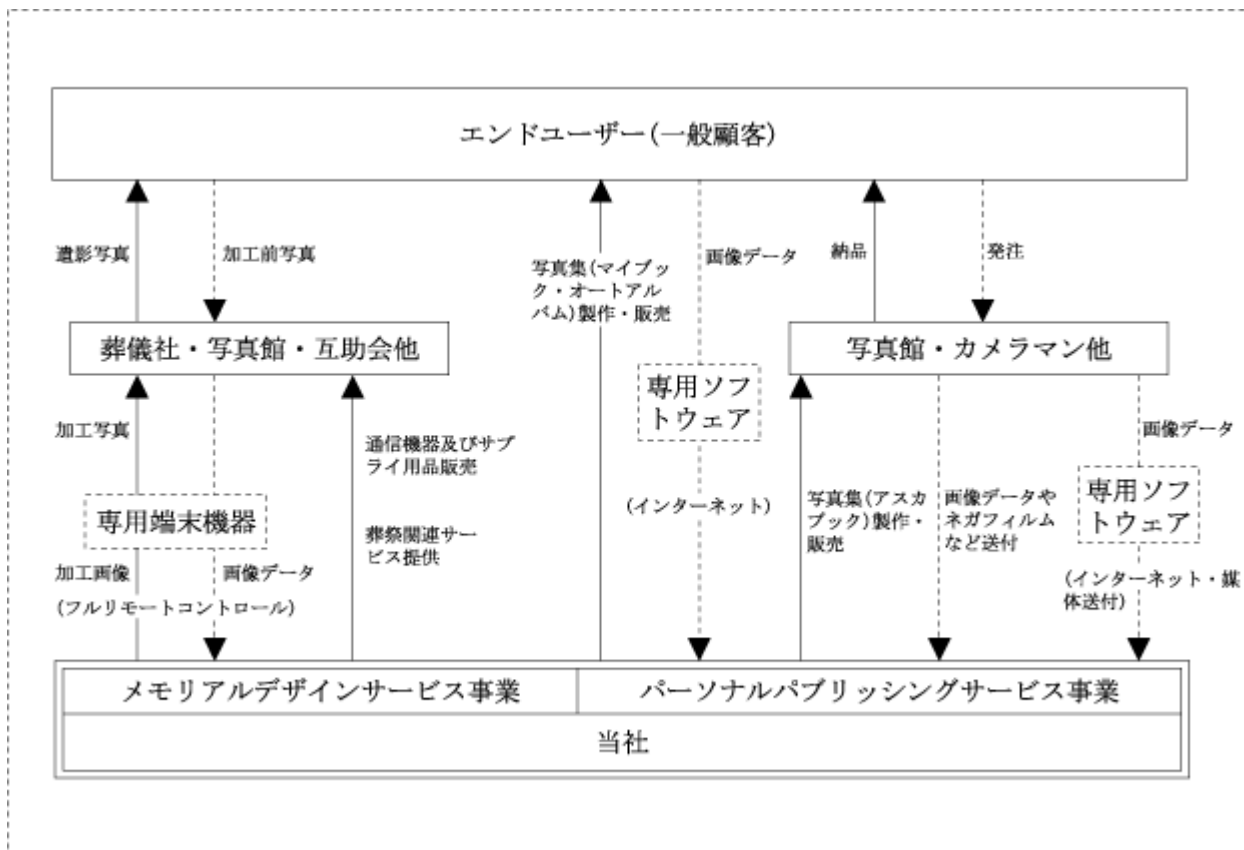
当社は、遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力を主体としたメモリアルデザインサービス事業と個人向け写真集の作製、販売を主体としたパーソナルパブリッシングサービス事業を主な事業として取り組んでおります。また、平成23年3月より、空中結像技術を取得し、エアリアルイメージング事業として、その研究、開発を開始いたしました。

なお、最近のセグメント別の売上実績は以下のとおりであります。

回次	第16期		第17期	
決算年月	平成23年4月		平成24年4月	
セグメントの名称	売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)
メモリアルデザインサービス事業	1,976,722	44.0	2,091,102	46.6
パーソナルパブリッシングサービス事業	2,520,597	56.0	2,386,409	53.2
エアリアルイメージング事業			7,946	0.2
合計	4,497,319	100.0	4,485,458	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当社の事業系統図は以下のとおりであります。



なお、エアリアルイメージング事業につきましては、研究開発中心の段階ですので、事業系統図には記載しておりません。

(1) メモリアルデザインサービス事業

当事業におきましては、主として葬儀葬祭関連の会社に対し、遺影写真等写真画像のデジタル加工、通信出力およびメモリアルビデオなど葬祭関連演出サービスの提供並びに付随するシステム機器、サプライ用品等の販売を行っております。

当事業の特徴は以下のとおりであります。

当事業の成り立ち

従来より遺影写真は葬儀において不可欠な要素でありましたが、その作成手法は暗室において遺影写真の元となる写真から切り貼りするという大変手間がかかるものでした。また、仕上がりは不自然なものとなるのが実状でありました。

当社の前身となる株式会社飛鳥写真館において、写真業を営む傍ら、コンピュータによるデジタル画像処理により、不具合が生じた写真を修正するサービスを提供し、画像処理のノウハウを蓄積いたしました。そのノウハウを元に遺影写真に特化した画像処理技術を研究、確立し、集配可能な地域において取引先を拡大してまいりました。

その後、通信インフラ技術、リモートコントロール技術との融合により、葬儀社などでの集配業務を削除でき、高品質、低価格、短納期で遺影写真を全国に提供できるサービスを確立させ、当社を設立し、全国的に展開いたしました。

遺影写真の加工技術

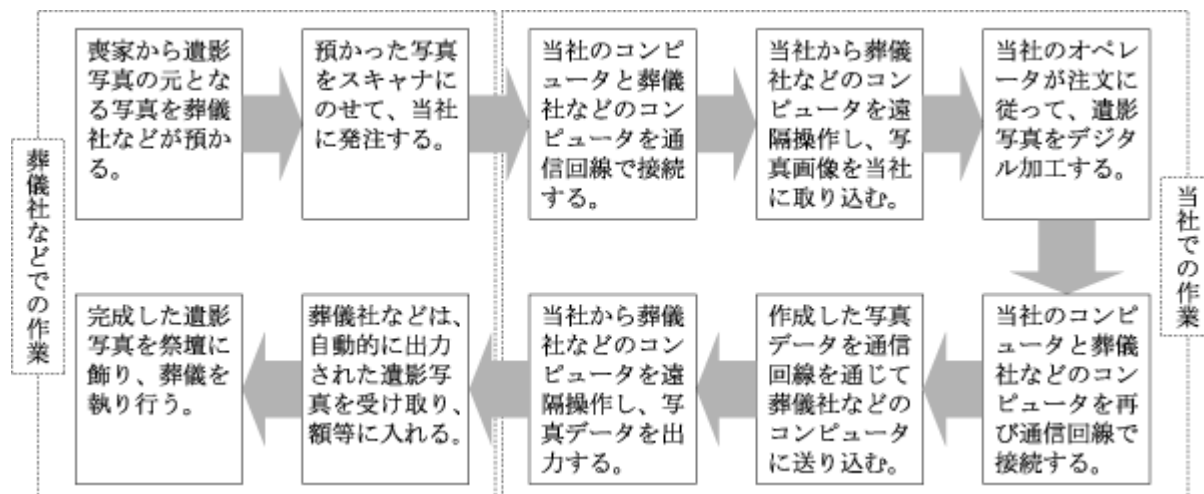
遺影写真の加工は最新のコンピュータとソフトウェアを用いて行っておりますが、コンピュータは単なる絵筆であり、ソフトウェアを使用するだけで美しい遺影写真を作成できるわけではありません。加工前写真は小さなものも多く、拡大をする必要があり、また、喪家のご要望により、着物を洋装や和装に着せ替える必要が生じます。その際、自然な感じに仕上げるためには、粒子の質感を合わせたり、顔の向きと体の向きを調整したり、顔の大きさのバランスや首の仕上げ、絵画的な表現など、広範囲にわたる特殊な画像加工ノウハウを必要とします。当社では、長年の蓄積による遺影写真に特化したオペレーター教育体制を確立しており、常に高品質の加工技術を用いて作成された遺影写真を提供しております。

ネットワークによる囲い込み

遺影写真等写真画像のデジタル加工につきましては、当社の顧客にコンピュータ・スキャナ・プリンタなどから構成される専用端末機械を設置し、加工前写真の取り込みから加工済み写真のプリント出力までを、通信回線を通じ、当社でフルリモートコントロール(注)にて処理しております。

(注)フルリモートコントロールとは、加工前写真の取り込み作業及び加工済み写真のプリントアウト作業を当社のオペレーターが通信回線を通じて葬儀社などに設置してある専用端末機械を遠隔操作によって行うものです。従って、葬儀社などにとっては、スキャナ上に遺影写真作成の元となる加工前写真を置くだけで、あとは完成された遺影写真が自動的にプリンタから出力される流れになります。

フルリモートコントロールによるプロセスを示すと、以下のようになります。



このフルリモートコントロールの仕組みにより、地域を問わずサービスの提供が可能となり、全国約1,900件の専用端末機械を設置し、ネットワークによる囲い込みを実現しています。

サポート体制

万が一専用端末機器が故障した場合に備えて、全国11箇所に自社社員によるメンテナンスサポート拠点を設置し、何時でも迅速に機器の代替ができる365日自社サポート体制を構築することによって、葬儀社などに安心感を提供しております。

新しい演出サービスの総合的提供

当事業においては、遺影写真等のデジタル加工、通信出力サービスの他に、以下のようなサービスを提供しています。

- ・主に葬祭会館祭壇用に開発した、エッジライト(導光板)やLEDを応用した光るパネル(額)を提供し、そのパネルに使用するフィルムへの遺影写真等の出力サービスを行っております。このサービスにより葬祭会場のどの場所からも遺影写真がはっきり見えるようになります。
- ・故人の思い出の写真を川の流れや四季の動画やナレーションと共に編集を行い、葬儀に際し、ビデオとしてスクリーン投影し、故人を偲ぶ葬儀演出用コンテンツの作成・通信出力サービスを行っております。
- ・家庭に残された故人の子供の頃からの多量の写真を元に、追悼の写真集を製作しております。
- ・故人の写真数枚から製作するイメージポスターをデザインし、製作・通信出力するサービス(メモリアルコラージュ)を提供しております。このサービスは、主に葬祭会館のロビーにおいて、故人の思い出の品とともに展示されています。

(2) パーソナルパブリッシングサービス事業

当事業におきましては、デジタルカメラの急速な普及や、ブロードバンド環境の一般化を背景に、写真館などのプロフェッショナル写真市場、写真愛好家を中心とするハイエンドアマチュア(注1)市場、一般コンシューマ市場向けにオンデマンド写真印刷(注2)による1冊からの少ロットに対応した個人向け写真集(アスカブック、マイブック、オートアルバム)の製造、販売及び関連するソフトウェアの開発、販売を行っております。

(注) 1 ハイエンドアマチュアとは、デジタル一眼レフカメラなどを所有し、写真撮影を趣味としている人々のことです。

2 オンデマンド写真印刷とは、フィルムや版を作製することなく写真データを直接印刷することです。当事業の特徴は以下のとおりであります。

当事業の成り立ち

当事業は、従来の「写真撮影 プリント アルバム」から「デジタルカメラ撮影 インターネット写真集」というデジタルカメラからの新しいアウトプット手法を提案するものであります。メモリアルデザインサービス事業で蓄積してきた画像加工ノウハウと、デジタルカメラの普及、ブロードバンドの一般化という市場環境を融合させ、当事業を開始いたしました。

写真データがデジタル化されているため、コンピュータにより自由に加工、編集が可能となり、比較的容易に自分だけのオリジナルデータが作成でき、そのデータをインターネット経由で発注することで、自分だけの写真集を1冊から提供しております。

技術的背景

当事業の特色は、特殊なオンデマンド印刷によって作成される印刷画像のクオリティーの優位性にあります。これまで写真集を通常の印刷で製作しようとする場合は、印刷に必要な製版を行う必要があるため、非常に高価となり、数冊レベルの少ロット作製には不向きでした。

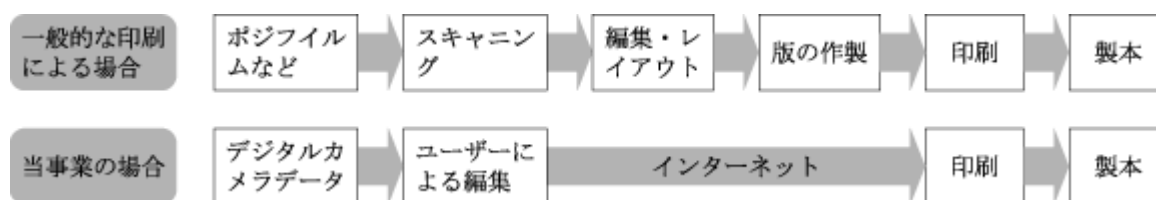
一方、オンデマンド印刷と呼ばれる無版印刷では、一般的には、色表現や機器制御が難しいため、高品質で安定した写真表現は困難とされてきました。当事業では当初から写真プリントと同等の高品質無版印刷を目指し研究開発を行ってまいりました。その結果、高度なカラーマネジメント技術(注1)や当社印刷機専用のカラープロファイル(注2)、高い品質安定度を実現するオンデマンド印刷機器の制御技術、使用用紙の表面処理技術などにより、写真プリントと同等の高品質印刷による写真集を1冊から非常に安価で作製することを実現いたしました。

また、一般の写真愛好家でも、特別な編集スキルを必要とせず、自由に発注できる写真集編集用ソフトウェアを各種開発し、提供しております。ユーザーは、そのソフトウェアをWEBなどからダウンロードして使用でき、データ制作後には再びWEBから発注が出来るようになっております。発注されたデータは当社のサーバー内にて自動組版されることにより、効率的な生産を行っております。また当事業では、クオリティーや納期を重視するために、写真のデータ化・画像処理・画像用サーバー運用・印刷・製本までの全てを自社内で運用しています。これらにより一冊からの少ロット・多品種であるにもかかわらず非常に安価で高品質な写真集を提供することが可能になっています。

(注) 1 カラーマネジメント技術とは、正しく設定されたユーザーのモニターやスキャナと当社印刷物の色調を統一的に管理する技術のことです。

2 デジタルカメラなどで作成されたデータは光の三原色(RGB)によって構成されています。カラープロファイルとは、そのデータを印刷用インキの四色(CMYK)のデータに変換する一種のプログラムのことで、印刷品質に大きく影響を与えるものです。

一般的な印刷による写真集作製工程と当事業における写真集作製工程との主な違いは以下のように示すことができます。



サービス概要

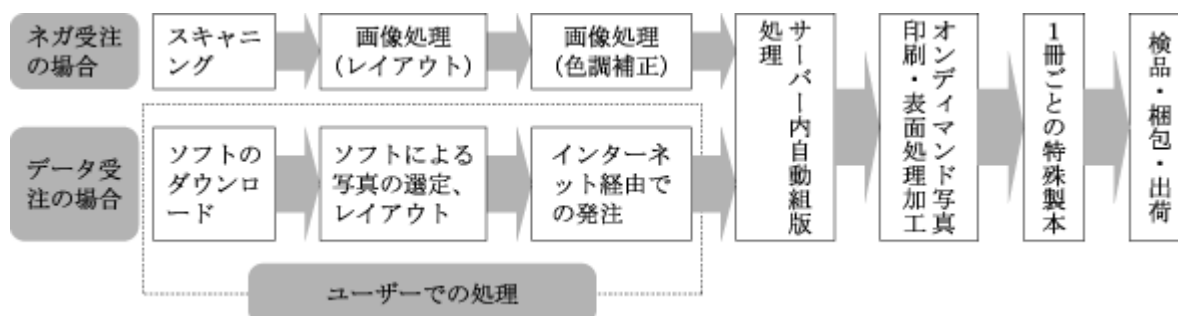
当事業において提供している製品は、主に、アスカブック、マイブック、オートアルバムであります。

アスカブックは主としてプロフェッショナル写真市場向けの製品で、サイズが大きく厚厚なものや、書店に並んでいる写真集と同様のつくりとなっており、当社が提供しておりますソフトウェア「アスカブックメーカー」や「ファイルチェッカー」による入稿のほか、デジタルカメラで撮影された写真データでの入稿やネガフィルムでの入稿にも対応しております。当市場に対しては、自社営業による顧客開拓のほか、デジタルフォトセミナーを主催し、顧客の囲い込みに努めております。特に婚礼写真市場向けの販売が主力となっております。マイブックは主として一般コンシューマ向けの製品で、インターネット経由により簡単に発注でき、安価で提供しており、子供の成長記録や旅行の思い出記録などに適しています。マイブックについても、発注用のソフトウェアを開発し、ユーザーに無償で提供しており、このソフトウェアを用いることによって専門的な知識がなくとも、自由にデザイン、レイアウトすることが可能です。また、ウェブ上で簡単に発注できるかんたんマイブックも提供しております。オートアルバムは、日常の写真をアルバムとして安価で製本するサービスで、写真データをアップロードすることで簡単に発注することができます。これらの市場に対しては、自社のサイトでのサービス提供のほか、デジタルカメラメーカー、写真関連サイトやポータルサイトの運営会社、画像管理ソフトウェアなどと提携を進めることにより、製品の拡販に努めております。

生産フロー

当事業では、写真のデータ化、デザイン処理から印刷、製本までを社内一貫生産することで、短納期できめ細かい対応を実現しております。

生産フローの概要は以下のとおりであります。



(3) エアリアルイメージング事業

当事業におきましては、空中結像技術を元に、様々な映像画像の新しい表現方法を模索しています。より高度な空中結像を可能にするための研究、それを実現する反射パネル等の製造、当技術が有効に活用される市場のマーケティングを主要な活動としております。

当事業の特徴は以下のとおりであります。

当事業の成り立ち

当社は、デジタル画像処理やオンデマンド写真印刷等、常に映像画像の新しい表現方法を追求しております。そのような状況の中、空中に映像画像を結像させ表現するという極めてユニークな技術に出会い、その技術者とともに当社に取込み、当事業を開始いたしました。

技術的背景

当事業の技術は、別の装置から発光される映像画像が特殊な反射パネルを通過することによって、空中に再結像させる受動系技術と、自らが映像画像を発して空中に結像させる能動系技術に二分されます。まずは、基盤の試作化に成功しており、反射パネルに独自の技法を施すことにより、高照度、高精細、高い飛び出し距離を実現しています。また、平面だけでなく立体画像映像も空中に結像させるなど研究を進めてまいります。あわせて、より高度な能動系技術の研究も追隨させてまいります。

現状の課題と今後の方向性

受動系技術、能動系技術とも、今までない新しい技術であり、その実現には様々な課題があります。まずは、研究開発に重点的に取り組んでまいります。受動系技術につきましては、さらなる技術研究を進めるとともに、量産化にむけた製造技術の研究が課題となっています。能動系技術につきましては、技術開発を進め、試作機の製作に取り掛かっております。

今後は、技術面、製造面の研究を進めると同時に、試作品をもってマーケティングを行っていく方針です。空中に画像映像が浮かぶというユニークな技術であり、画像映像を表現しているあらゆる分野へ展開できる可能性を有しています。展示会への出展などで評価を受けて、より適合した用途での実用化を模索してまいります。ビジネスとして確立するには、一定の時間を要すると想定しております。

4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成24年4月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
269 (128)	33.5	6.0	4,431

セグメントの名称	従業員数(名)
メモリアルデザインサービス事業	137 (55)
パーソナルパブリッシングサービス事業	118 (69)
エアリアルイメージング事業	3 ()
全社(共通)	11 (4)
合計	269 (128)

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
3 臨時従業員には、パートタイマー及びアルバイトを含み、派遣社員を除いています。
4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
5 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度において当社は、写真・映像の新しい表現方法の創造や浸透を目指し、一つ一つカスタマイズされたモノ創りにこだわり、既存事業の着実な成長と新しい事業へのチャレンジの両立を意識し、邁進してまいりました。

景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等の画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供する安定型ストックビジネスであるメモリアルデザインサービス事業、写真市場という大きな市場に対し、1冊から本格的な写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するチャレンジングなビジネスであるパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれ位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

昨年8月にはコーポレートブランドを一新し、コーポレートサイトやサービスサイトをリニューアルしました。本年4月には、東京支社を移転し、ショールーム機能を強化しました。また、事業の特色を生かしたCSR活動にも取り組んでまいりました。

セグメント別の概況を示すと、次のとおりであります。

メモリアルデザインサービス事業

当事業を取り巻く環境は、高齢者社会が一段と進行する中でマーケット自体の拡大は見込めるものの、葬儀自体は会葬者の減少による施行価格の下落が継続しており、決して楽観を許さない状況となっております。

このような状況の中、引き続き当社の高い画像処理技術力や充実した自社サポート体制、葬儀演出全般に対応した豊富な商品ラインナップといった強みを生かし、着実に顧客を獲得してまいりました。主力である遺影写真加工収入が着実に増加し、それに伴い連動する額やペーパーなどのサプライ品の売上も増加しました。また、動画を用いた演出ツールも好調に推移いたしました。

その結果、売上高は2,091,102千円（前期比105.8%）、セグメント利益は701,093千円（前期比107.1%）となりました。

パーソナルパブリッシングサービス事業

当事業は、国内プロフェッショナル写真市場、海外プロフェッショナル写真市場、国内一般消費者市場に分けて展開しており、それぞれ、「アスカブック」、「AsukaBook」、「マイブック・オートアルバム」ブランドで展開しております。

国内プロフェッショナル写真市場におきましては、安定した高品質が求められており、新規参入は多くはありませんが、主要ターゲットであります婚礼市場において、全般的に低価格商品が好まれる傾向が高まっていることや、東日本大震災の影響で東北地区を中心に厳しい状況でありました。このような状況のなか、全国でのセミナーを実施したほか、写真集編集ソフトウェアのバージョンアップ、オーダーシステムのリリースなどの施策を実施してまいりました。

海外プロフェッショナル写真市場におきましては、多くの会社の参入が見られ、円高の進行とともに、当社品質の優位性が、価格競争とともに相対的に低下しており、苦戦が継続しております。したがって、販売経費も相応に縮小し、転機をうかがっている状況です。このような状況の中、写真集編集ソフトウェアのバージョンアップや多言語化、展示会への出展に取り組んでまいりました。

国内一般消費者市場におきましては、低価格商品で参入する企業が多く見られ、競争が激しくなっております。このような状況の中、当社の強みである高品質、多品種、発注用ソフトウェアの使いやすさを強調し、価格競争に陥ることなく、利益率の維持、向上に努めてまいりました。インターネットでの効果的な宣伝の実施、オートアルバムサービスの大幅なりニューアル、マイブック発注ソフトのバージョンアップやテンプレートの充実など各種施策を実行してまいりました。

費用面におきましては、材料費や広告宣伝費を削減し、減価償却費も減少したため、利益率は上昇いたしました。

その結果、売上高は2,386,409千円（前期比94.7%）、セグメント利益は448,564千円（前期比105.9%）となりました。

エアリアルイメージング事業

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、昨年3月に開始しました新規事業であります。

展示会の出展やデモを中心としたマーケティング、空中結像技術のさらなる進化を追求する研究開発、空中結像を可能にするパネルの製造の3分野でそれぞれ活動してまいりました。

マーケティング面におきましては、昨年9月、10月、本年3月と3回展示会に出展するとともに、関心をいただいた会社にデモンストレーションを行ってまいりました。製造面では、下期に試作品が完成し、試作品の販売を開始いたしました。研究開発面では、全方位型パネルやパネルの大型化、高精細化などの研究を積極的に進めてまいりました。

その結果、売上高は7,946千円（前期は実績なし）、セグメント損失は72,760千円（前期は6,490千円の損失）となりました。

以上の結果、売上高は4,485,458千円（前期比99.7%）となり、費用面につきましては、エアリアルイメージング事業におきまして、研究開発を積極的に実施したものの、パーソナルパブリッシングサービス事業におきまして、材料費および減価償却費が減少したため、経常利益は737,467千円（前期比100.7%）、当期純利益は426,826千円（前期比103.6%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、順調な利益の計上により営業活動からの資金獲得が進んだ一方、印刷機など生産設備の取得やソフトウェアの開発、定期預金への預入を行ったため、前事業年度末に比べ、209,606千円減少し、934,842千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動の結果獲得した資金は、704,016千円（前事業年度は642,393千円の獲得）となりました。これは主に、税引前当期純利益732,206千円、減価償却費231,898千円を計上しことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は、764,619千円（前事業年度は209,305千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得166,916千円、無形固定資産の取得76,899千円、定期預金の預入による支出500,000千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は、148,977千円（前事業年度は201,982千円の使用）となりました。これは主に、長期借入金の返済69,000千円、配当金の支払79,558千円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)		第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)	
	生産高(千円)	前期比(%)	生産高(千円)	前期比(%)
パーソナルパブリッシングサービス事業	1,273,041	93.5	1,128,890	88.7
エアリアルイメージング事業			3,600	
合計	1,273,041	93.5	1,132,490	89.0

- (注) 1 金額は、製造原価によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 メモリアルデザインサービス事業は、主に役務提供及び仕入商品の販売であり、生産を伴わないため、生産実績を記載しておりません。

(2) 仕入実績

仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)		第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)	
	仕入高(千円)	前期比(%)	仕入高(千円)	前期比(%)
メモリアルデザインサービス事業	434,288	107.4	429,119	98.8
パーソナルパブリッシングサービス事業	2,788	113.5		
合計	437,076	107.5	429,119	98.2

- (注) 1 金額は、仕入価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

メモリアルデザインサービス事業、パーソナルパブリッシングサービス事業、エアリアルイメージング事業とも受注実績はありますが、受注から売上計上までが、メモリアルデザインサービス事業においては概ね1日以内、パーソナルパブリッシングサービス事業においては概ね20日以内、エアリアルイメージング事業においては概ね1か月以内であるため、記載を省略しております。

(4) 販売実績

販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)		第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)	
	販売高(千円)	前期比(%)	販売高(千円)	前期比(%)
メモリアルデザインサービス事業	1,976,722	104.9	2,091,102	105.8
パーソナルパブリッシングサービス事業	2,520,597	94.7	2,386,409	94.7
エアリアルイメージング事業			7,946	
合計	4,497,319	98.9	4,485,458	99.7

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後の見通しとしましては、厳しい経済環境の継続、円の高止まり、競争の激化など予断を許さない状況が継続するものと思われま。このような環境のもと、継続して成長していくために、以下の項目に対処すべき課題と認識しております。

(1) パーソナルパブリッシングサービス事業の巻き返し

当事業におきましては、各市場とも売上に苦戦し、利益は増加したものの、売上は予想、前期実績とも下回る結果となりました。デジタルカメラの一般化に伴い、撮影ショット数は飛躍的に増加し、写真のアウトプットの潜在的な需要の大きさをうかがわせていますが、適切なソリューションを提供されておらず、写真アウトプット市場は伸び悩んでおります。当社が進めております写真集作成サービスも、コアな顧客層は獲得しておりますが、その拡大には時間を要しております。

プロフェッショナル写真市場に向けては、要望の強かった完全フラット方式の新製品を提供し、一般消費者市場に向けては、写真集編集ソフトウェアのマック版を提供することで、それぞれの顧客層の拡大を図ってまいります。そして、それを下支えする高品質を実現する技術力と満足度の高いユーザーサポートを充実させてまいります。

(2) エアリアルイメージング事業の実績作り

当事業は、昨年3月より、映像画像の新しい表現方法による市場の創造を目指して、空中結像技術を取得し、立ち上げました。展示会の出展などにより、各方面から引き合いがあり、試作品の提供を開始しました。

空中結像は様々な用途に利用可能で、大きな市場が想定されますが、一方で、技術の改良や量産化の実現など課題もあります。さらなるマーケティングの強化や技術的課題の解決により、当事業の実績を作り、具体的な展望を明確にしていきたいと思いますと考えております。

4 【事業等のリスク】

以下において、当社の事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社の株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載内容も併せて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、別段の記載がない限り、本書提出日現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

また、以下の記載は、当社株式への投資に関連するリスクを全て網羅するものではありませんので、ご留意下さい。

(1) 経営成績の変動について

当社の最近5事業年度における業績の推移は、以下のとおりであります。

回次	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
決算年月	平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月	平成23年4月	平成24年4月
メモリアルデザインサービス事業 (千円)	1,691,153	1,781,042	1,883,715	1,976,722	2,091,102
パーソナルパブリッシングサービス事業 (千円)	2,381,623	2,724,756	2,661,636	2,520,597	2,386,409
エアリアルイメージング事業 (千円)					7,946
売上高計 (千円)	4,072,777	4,505,798	4,545,351	4,497,319	4,485,458
売上総利益 (千円)	2,229,745	2,282,976	2,330,047	2,332,433	2,383,903
営業利益 (千円)	636,629	549,051	621,940	733,834	735,342
経常利益 (千円)	637,787	546,828	628,239	732,463	737,467
当期純利益 (千円)	363,565	301,961	354,656	411,965	426,826

(注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

平成20年4月期につきましては、平成19年4月期に実施した広告宣伝投資の効果もあり、売上は順調に増加するとともに、営業利益、経常利益ともに大幅に増加しました。

平成21年4月期につきましては、売上は増加したものの、オンデマンド印刷機の法定耐用年数の短縮による減価償却費の増加や、円高の影響等により、減益となりました。

平成22年4月期につきましては、売上高は前事業年度比微増にとどまったものの、生産性の向上、経費の節減等により、増益となりました。

平成23年4月期につきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業が苦戦したため、売上高は前事業年度を下回ったものの、メモリアルデザインサービス事業は堅調に推移し、販売費及び一般管理費の削減も進んだため、増益となりました。

平成24年4月期につきましては、エアリアルイメージング事業で研究開発を進めた一方、メモリアルデザインサービス事業が堅調に推移し、パーソナルパブリッシングサービス事業では粗利率が向上したため、増益となりました。

当社の最近5事業年度における業績等の推移は上記のとおりであります。各期の変動要因は異なっており、今後の当社の業績等を予測する材料としては、過年度の経営成績だけでは不十分である可能性があります。

(2) 葬儀施行価格の低下傾向の影響等について

当社のメモリアルデザインサービス事業が対象とする葬儀業界においては、高齢化社会が一段と進行する中でマーケット自体の拡大が見込まれるものの、会葬者の減少により、葬儀施行価格が全般的に低下傾向にあります。当社が取扱う遺影写真等の葬儀施行価格全体に占める割合は相対的に低く、葬儀施行価格の低下の影響は限定的なものと考えており、また、当社では遺影写真自体の高品質化による他社との差別化や葬儀演出関連の新サービスの提案により販売単価の低下を抑制するよう努めております。さらに、画像加工業務の効率化などにより利益率向上にも努めております。しかしながら、このような施策を行ったにもかかわらず、全体的な葬儀施行価格の低下の影響を受け、遺影写真の販売単価の低下が余儀なくされた場合、当社の業績に影響を与える可能性があります。また、昨今、お亡くなりになった方を葬儀を行わず直接火葬場へ送る、いわゆる直葬が増加傾向にあり、直葬におきましては遺影写真を作成しないことが多くあります。現在のところ、全体に占める割合は僅少であります。将来大きく増加した場合、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(3) 競合の影響について

当社が、メモリアルデザインサービス事業において主として行っている、遺影写真等画像のデジタル加工、通信出力サービスは、当社が独自に他社に先駆けて開発したものであり、長年培ってきた技術やノウハウによって高い品質を維持するとともに、全国的な自社サポート拠点の設置による安定的なサービス供給体制を構築しており、他社の追随を許さないものとなっております。当サービスにおきましては、全体の遺影写真に対する、フルリモートコントロールによる通信出力を活用したデジタル画像加工が占める割合は現在のところまだ相対的に低く、今後とも同方法への切り替え需要が見込めるものと思われま。現在のところ、当社と類似したサービスを提供している会社はありますが、品質、サポート体制、顧客基盤、新サービス開発力において当社に優位性があるものと認識しております。従いまして、当事業を推進していくうえで、他社との競合が激化するような可能性は低いものと考えております。将来において、新たな技術、手法による遺影写真等の画像加工サービスが開発され、当社が提供するサービスに置き換わるような事象が生じた場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

また、パーソナルパブリッシングサービス事業において提供しております、高品質なオンデマンド写真印刷による、少ロット、低価格の個人向け写真集の作製は、メモリアルデザインサービス事業で蓄積してきた高い画像処理ノウハウや、高度なカラーマネジメント技術、特殊印刷機制御技術など広範囲にわたる技術やノウハウを基として確立した事業であります。当社と同様の事業を行う会社は存在しますが、品質、営業・サポート体制、顧客基盤、新製品開発力において当社に優位性があるものと認識しております。しかしながら将来において、技術開発とマーケティングの両面において能力の高い企業が市場に参入し、競争の激化によって当社の優位性が失われた場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(4) システム障害について

当社の事業はインターネットなど通信ネットワークを利用しているため、地震や水害等の自然災害、火災・電力供給の停止等の事故あるいはコンピューターウイルス等の外部からの不正な手段によるコンピューターへの侵入等により、通信ネットワークの切断、ネットワーク機器等の作動不能や誤作動等の事態が生じた場合に、当社の事業に大きな影響を及ぼす可能性があります。

当社においては、このようなリスクを回避するため、自動バックアップシステムの構築や、緊急時のシステム対応の徹底、自家発電設備の導入等、対策を講じておりますが、このような対策にもかかわらず何らかの要因でシステムに障害が発生した場合、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(5) 顧客情報や顧客資産の管理について

当社は、写真画像の加工や写真集作製のサービス提供を行っており、この過程において顧客情報を取扱うこととなります。また、サービスによってはネガフィルムなど顧客資産を預かることとなります。

そうした顧客情報の機密保持につきましては、情報を取扱うデータベースへのパスワードによるアクセス制御等セキュリティ対策を整えるほか、徹底した社員へのモラル教育実施や内部監査の強化などを行うことで、当社内部からの漏洩防止に努めるとともに、個人情報に関してはプライバシーマークを取得するなど管理体制を整備しております。また、顧客資産の管理につきましては、管理手法の徹底、教育、付保などの対策を講じております。こうした対策にもかかわらず、不測の事態により顧客情報の漏洩または顧客資産の紛失が発生した場合、当社の社会的信用の低下や賠償の支払などにより、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(6) サービスの展開について

当社は、新しい写真文化の創造を目指して、常に他社より先駆けて積極的に新サービスを展開する方針であります。新サービスの展開にあたっては、当社において研究開発やシステム開発を行う必要があります。当該開発が様々な要因により時間を要して対応が遅れた場合や、必ずしも当初の想定どおりに進捗しなかった場合には、当社の業績や財務状態に影響を与える可能性があります。

また、開発が想定どおりに進捗した場合であっても、販売網の構築や新サービスの認知に時間がかかることや顧客ニーズに十分応えることができないなどの原因により、収益獲得が想定どおりに進捗しなかった場合には、当社の業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) エアリアルイメージング事業について

当社は、映像画像の新しい表現方法として、空中結像技術を取得し、エアリアルイメージング事業として、事業を開始しました。非常に斬新でユニークな技術であるがゆえに、さらなる技術開発に想定より時間がかかったり、コストがかかる可能性があります。また、空中結像を可能にする反射パネルの試作化には成功しており、これから量産化研究を進めますが、量産化が想定通り進まない可能性があります。マーケティングが上手く行えなかったり、販売パートナーの開拓や製品・技術の認知に時間がかかったり、顧客ニーズに十分応えることができない可能性があります。これらの原因により、収益獲得が想定どおりに進捗しなかった場合には、当社の業績や財務状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当技術は、高照度、高精細、高い飛び出し距離など優位性を持っておりますが、当技術より優れた技術が出現し、当技術が陳腐化する等の原因により、収益獲得が想定どおりに進捗しなかった場合には、当社の業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 海外での事業展開の進捗について

当社は、特にパーソナルパブリッシングサービス事業においては、新しい写真文化の創造を目指して、アメリカなど海外に事業を展開する方針であります。海外への事業展開にあたっては、文化、言語、習慣の違いなどからマーケティングに想定以上の時間がかかったり、適切な代理店網の構築が十分にできないことやサービスの認知に想定以上の時間がかかるなどの原因により、収益獲得が想定どおりに進捗しなかった場合には、当社の業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 販売代理店との関係について

当社は、海外におけるパーソナルパブリッシングサービス事業の展開においては、各エリアごとに販売代理店を設置し、販売代理店と協働して市場の拡大を図っております。現時点では、販売代理店と友好的かつ安定的な関係を維持しておりますが、今後何らかの理由により有力な販売代理店との関係が悪化した場合、当社の業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 為替変動の影響について

当社は、特にパーソナルパブリッシングサービス事業においては、新しい写真文化の創造を目指して、アメリカなど海外に事業を展開する方針であり、海外向け売上も一定の規模があります。海外向け売上は外貨建て取引が中心であり、急激な円高となった場合は、海外向け売上の採算が悪化し、当社の業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 知的財産権について

当社は、積極的に特許権、商標権等の出願を行い、知的財産権の保全を図っていく方針であります。これらの登録出願が認められない可能性があり、そのような場合には当社の今後の業績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社の知的財産権が侵害された場合には、解決までに多くの時間及び費用が発生するなど、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社ではこれまで知的財産権に関しての侵害訴訟等を提起されておられません。しかしながら、当社の事業分野における知的財産権の現況を完全に把握することは非常に困難であり、当社が把握できないところで知的財産権を侵害している可能性は否定できません。また、今後当社の事業分野における第三者の特許権など知的財産権が新たに成立し、損害賠償または使用差止等の請求を受ける可能性があり、そのような場合には当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 生産能力の集中について

当社は、メモリアルデザインサービス事業の生産能力の約3分の2、パーソナルパブリッシングサービス事業の生産能力のほとんどが広島県広島市の本社及びその周辺に集中しております。これは生産能力の集中による生産設備の高稼働や、効率的な生産体制の構築、生産人員の教育の容易さなど集中させているメリットが十分にあると判断しているためであります。地震や水害等の自然災害、火災・電力供給の停止等の事故、物流網の障害などが生じた場合、製品・サービスの供給が滞り、当社の業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 代表取締役社長への依存について

当社の代表取締役社長である福田幸雄は、当社の創設者であり、会社経営の最高責任者として経営方針や事業戦略の決定をはじめとして、当社の事業推進において重要な役割を果たしております。

このため、当社では同氏に対する過度な依存を回避するよう、権限の委譲などにより経営リスクの軽減を図るとともに、他の経営陣の育成に努めるなど経営体制の構築に努めておりますが、同氏が何らかの理由により業務遂行に支障を来たすような事態となった場合、当社の業績や事業の推進に影響を与える可能性があります。

(14) 小規模組織であることについて

当社は、平成24年4月末現在、取締役3名、監査役3名並びに従業員269名と規模が比較的小さく、社内管理体制もこの規模に応じたものになっております。本年7月におきまして、社外取締役1名を選任いただき、取締役4名体制へと拡充いたしました。今後につきましても、事業拡大に伴い人員増強を図り、社内管理体制もあわせて強化・充実させていく方針であります。事業の拡大及び人員の増加に適時適切に組織的対応が出来なかった場合は、結果として当社の事業遂行及び拡大に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、小規模な組織であるため、業務を特定の個人に依存している場合があります。今後、さらなる権限委譲や業務の定型化、代替人員の確保・育成などを進める予定ですが、特定の役職員の社外流出などにより、当社の業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

(15) 役員退職慰労金について

当社では、役員退職慰労金については在任期間の経過ではなく、在任中の功勞に応じて支給する方針のため、会社の業績動向により、その金額は減額されたり、場合によっては支払われないこともあります。従いまして、支給金額の上限の目安となる算定基準は設けているものの、支給見込額の合理的予測は困難であり、引当金を計上しておりませんが、役員が退任し、費用負担が発生した場合には、当社の業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当事業年度の研究開発活動は、デジタル技術を応用したネットワーク型情報社会が確立していく中、当社の強みである画像処理技術や写真印刷技術を生かした新製品の開発及び新市場の開拓に積極的に取り組んでおります。ネットワーク型情報社会では、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術、画像処理技術、組版技術、写真印刷技術、製本技術など専門分野が細分化しており、当社は画像処理技術及び写真印刷技術の研究をメインとし、各専門分野のエキスパートと情報交換、技術協力により、新たなサービスの企画開発を行っております。また、新しい映像画像の表現方法として、空中結像技術を取得し、さらなる研究開発を進めております。

研究開発体制としましては、メモリアルデザインサービス事業とパーソナルパブリッシングサービス事業につきましましては、企画開発室が中心となり、両事業部門と密接に連携することにより、効率的な研究開発活動を行っております。また、エアリアルイメージング事業につきましましては、A I 事業開発室が研究開発活動を行っております。

当事業年度の研究開発費の総額は93,482千円となっております。メモリアルデザインサービス事業とパーソナルパブリッシングサービス事業は共有の研究開発も行っているため、研究開発費は、両事業につきましましては、セグメント別に区分しておりません。

セグメント別の研究開発活動を示すと、次のとおりであります。

メモリアルデザインサービス事業

メモリアルデザインサービス事業では、主として、お客様の多様なニーズにこたえる高付加価値サービスの開発、商品化に取り組んでおります。当事業年度は、主として、映像系サービスの開発やデジタルサイネージを活用した商品化の研究などに努めてまいりました。

パーソナルパブリッシングサービス事業

パーソナルパブリッシングサービス事業では、「デジタルカメラから写真集」という新しい写真表現方法に役立つ発注ツールやコミュニケーションツールの開発に重点的に取り組んでおります。当事業年度は、主として、写真集編集ソフトウェアのバージョンアップや顧客との関係を緊密にする発注ツールの開発、生産を効率化するシステムの研究などに努めてまいりました。

エアリアルイメージング事業

エアリアルイメージング事業では、映像画像の新しい表現方法として、空中結像技術の開発に取り組んでおります。当事業年度は、空中結像を可能にするパネルの製造技術研究、大型化研究、全方位型研究を進め、パネルの試作に取り組んでまいりました。当事業年度における研究開発費の金額は56,451千円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(全般)

当事業年度末における総資産は、前事業年度末に比べ、368,983千円増加し、3,770,568千円となりました。その主な要因は、現金及び預金が増加したためであります。また、自己資本比率は前事業年度末に比べ、1.4ポイント増加し80.3%となりました。

(流動資産)

当事業年度末における流動資産は、前事業年度に比べ、256,677千円増加し、2,154,634千円となりました。その主な要因は、利益の順調な計上により営業キャッシュ・フローが着実に獲得され、現金及び預金が増加したことによるものであります。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産は、前事業年度に比べ、112,306千円増加し、1,615,933千円となりました。その主な要因は、機械装置の購入などにより有形固定資産が増加したことによるものであります。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債は、前事業年度に比べ、100,523千円増加し、717,840千円となりました。その主な要因は、期末時の設備の購入により未払金が139,936千円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債は、前事業年度末に比べ、66,129千円減少し、24,383千円となりました。その主な要因は、長期借入金が69,000千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当事業年度末における純資産は、前事業年度末に比べ、334,588千円増加し、3,028,344千円となりました。その主な要因は、利益剰余金が増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの分析

当事業年度におきましては、順調に税引前当期純利益を計上したことに加え、売上債権、たな卸資産が減少し、未払金が増加したため、営業活動による獲得した資金は704,016千円（前事業年度は642,393千円の獲得）となりました。投資活動におきましては、生産設備の取得やソフトウェアの開発、定期預金への預入などによって764,619千円の使用（前事業年度は209,305千円の使用）となりました。財務活動におきましては、長期借入金の返済や配当金の支払により148,977千円の使用（前事業年度は201,982千円の使用）となりました。

(3) 経営成績の分析

(全般)

当事業年度の経営成績は、売上高4,485,458千円（前期比99.7%）、経常利益737,467千円（前期比100.7%）、当期純利益426,826千円（前期比103.6%）となりました。メモリアルデザインサービス事業は順調に推移しましたが、パーソナルパブリッシングサービス事業におきましては、特に海外市場や国内一般消費者市場におきまして、競争環境の激化により、売上高は前事業年度を下回る結果となりました。利益面につきましては、エアリアルイメージング事業において、展示会の出展や研究開発の実施により、先行費用が発生しましたが、メモリアルデザインサービス事業における順調な利益増や、パーソナルパブリッシングサービス事業におきましては、材料費の削減や減価償却費の減少により、利益率は向上しました。その結果、利益につきましては、前事業年度を上回る結果となりました。

(売上高)

売上高は4,485,458千円（前期比99.7%）となりました。

メモリアルデザインサービス事業におきましては、主力である遺影写真加工収入が堅調に推移し、それに伴いサプライ品の売上も増加しました。映像コンテンツ収入も大きく増加したため、売上高は2,091,102千円（前期比105.8%）となりました。

パーソナルパブリッシングサービス事業におきましては、それぞれの市場において厳しい状況で推移しました。国内プロフェッショナル写真市場におきまして、東日本大震災の影響により東北・北関東地域が苦戦いたしました。海外市場、国内一般消費者市場におきましては、新規参入が多く見られ、当社は一線を画しているものの、価格競争の影響も見られます。その結果、売上高は2,386,409千円（前期比94.7%）となりました。

エアリアルイメージング事業におきましては、下期後半より試作パネルの提供を開始いたしました。その結果、売上高は7,946千円（前期は実績なし）となりました。

(売上原価)

売上原価は、前事業年度に比べ、63,330千円減少し2,101,555千円となり、売上原価率は前事業年度に比べ、1.3ポイント良化し、46.8%となりました。これは主に、パーソナルパブリッシングサービス事業におきまして、材料費および減価償却費が減少したことによるものであります。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は、前事業年度に比べ、49,961千円増加し1,648,560千円となり、売上高販売費一般管理費比率は、前事業年度に比べ、1.2ポイント上昇し、36.8%となりました。これは主に、エアリアルイメージング事業において人件費および研究開発費が増加したこと、東京支社移転に伴い移転費用が発生したことによるものであります。

(営業外損益及び特別損益)

営業外収益は、前事業年度に比べ、623千円減少し9,040千円となりました。

営業外費用は、前事業年度に比べ、4,119千円減少し6,915千円となりました。これは主に、借入金の返済による支払利息の減少および為替差損の減少によるものであります。

特別利益は、前事業年度に比べ、10,787千円増加し10,787千円となりました。これは、新株予約権戻入益の計上によるものであります。

特別損失は、前事業年度に比べ、16,031千円減少し16,048千円となりました。これは主に、前事業年度に計上した固定資産臨時償却費がなくなったためであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当事業年度におきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業における印刷機など生産設備を中心に、284,926千円の設備投資を行いました。

また、パーソナルパブリッシングサービス事業における写真集製作用ソフトウェアの開発や受注システムの開発を中心に、73,458千円のソフトウェア投資を行いました。

なお、当事業年度中は重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

平成24年4月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員 数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (広島市安佐南区)	本社機能、 パーソナル パブリッ シングサ ービス事 業、エ アリアル イメー ジング 事業	統括業務施 設、画像 処理設 備、生 産設備等	284,443	274,095	236,059 (1,815)	44,298	838,897	116 [72]
関東支社 (千葉市美浜区)	メモリアル デザイン サービス 事業	画像処理設 備等	1,914		()	1,639	3,554	41 [25]
東京支社 (東京都港区)	パーソナル パブリッ シングサ ービス事 業	備品等	13,476		()	2,637	16,113	21 []
フューネラル事 業部 (広島市安佐南 区)	メモリアル デザイン サービス 事業	画像処理設 備等	183,759		134,699 (719)	4,071	322,530	91 [31]

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定であります。
2 従業員数は就業人員であります。
3 従業員数欄の[外書]は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
4 現在休止中の設備はありません。
5 関東支社及び東京支社は、賃貸借契約により使用しているものであり、年間賃借料はそれぞれ18,821千円、16,356千円であります。
6 上記の他、主要なリース設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
本社 (広島市安佐南区)	全社共通	車両運搬具他	1,173	

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)				
本社 (広島市安 佐南区)	パーソナルパ ブリッシング サービス事業	印刷加工 設備	78,720	4,065	自己資金	平成24年 3月	平成24年 9月	生産能力 10%増
	全社共通	土地建物	87,000		自己資金	平成24年 8月	平成24年 11月	

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	168,000
計	168,000

(注) 平成24年3月27日開催の取締役会決議により、平成24年5月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は16,632,000株増加し、16,800,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年7月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	43,660	4,366,000	東京証券取引所 マザーズ	(注)
計	43,660	4,366,000		

(注) 平成24年3月27日開催の取締役会決議により、平成24年5月1日付けで1株を100株に株式分割し、100株を1単元とする単元株制度を採用いたしました。これにより株式数は4,322,340株増加し、発行済株式総数は4,366,000株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成18年5月1日～ 平成19年4月30日 (注)	1,140	43,660	14,250	490,300	14,535	606,585

(注) 新株引受権の行使による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年4月30日現在

区分	株式の状況								単元未満株 式の状況
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		7	10	21	20	1	2,353	2,412	
所有株式数 (株)		3,323	670	552	924	6	38,185	43,660	
所有株式数 の割合(%)		7.61	1.53	1.26	2.12	0.01	87.47	100.00	

(注) 自己株式1,794株は、「個人その他」に含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
福田 幸雄	広島県広島市西区	14,090	32.27
アスカネット従業員持株会	広島県広島市安佐南区祇園3丁目28-14	2,215	5.07
株式会社アスカネット	広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号	1,794	4.11
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,042	2.39
株式会社広島銀行 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	広島県広島市中区紙屋町1丁目3-8 (東京都中央区晴海1丁目8-12晴海ア イランドトリトンスクエアオフィスタ ワーZ棟)	950	2.18
木原 伸二	広島県広島市南区	810	1.86
功野 顕也	広島県広島市中区	744	1.70
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	699	1.60
福田 俊也	大阪府茨木市	480	1.10
松尾 雄司	広島県世羅郡	430	0.98
計		23,254	53.26

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,794		
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,866	41,866	
単元未満株式			
発行済株式総数	43,660		
総株主の議決権		41,866	

【自己株式等】

平成24年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アスカネット	広島県広島市安佐南区祇園 3丁目28番14号	1,794		1,794	4.11
計		1,794		1,794	4.11

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	1,794		179,400	

(注) 平成24年5月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題として認識しており、配当につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、業績に応じた配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を基本的な方針としております。期末配当の決定機関は株主総会であります。

上記方針のもと、当事業年度の配当につきましては、1株当たり2,000円といたしました。

内部留保資金の用途につきましては、今後の事業展開への備えと、設備投資、研究開発投資として、投入することとしております。

なお、当社は中間配当を行うことが出来る旨を定款に定めております。

基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たりの配当額(円)
平成24年7月27日定時株主総会決議	83,732	2,000

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
決算年月	平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月	平成23年4月	平成24年4月
最高(円)	182,000	181,000	77,000	136,400	89,400 813
最低(円)	67,300	39,400	39,100	45,100	48,700 728

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおける株価を記載しております。

2 印は、株式分割による権利落後の株価であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年11月	12月	平成24年1月	2月	3月	4月
最高(円)	62,900	65,400	68,500	81,000	83,500	89,400 813
最低(円)	52,100	56,000	58,800	63,000	71,500	78,000 728

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおける株価を記載しております。

2 印は、株式分割による権利落後の株価であります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社 長	C E O	福田 幸雄	昭和23年3月5日	昭和57年5月 飛鳥写真工芸社創業 昭和58年4月 株式会社飛鳥写真館設立 同社代表取締役社長(現任) 平成7年7月 当社設立 当社代表取締役社長 平成19年5月 当社代表取締役社長兼CEO(現任)	(注)3	14,090
常務取締役	C O O	松尾 雄司	昭和36年10月7日	平成4年8月 有限会社セイコー物産入社 平成10年4月 当社入社 平成13年12月 当社フューネラル事業推進部長 平成14年5月 当社フューネラル事業部長 平成14年7月 当社取締役フューネラル事業部長 平成17年5月 当社常務取締役 平成19年5月 当社常務取締役COO(現任)	(注)3	430
常務取締役	C F O 兼 A I 事業担 当	功野 顕也	昭和46年1月12日	平成9年8月 監査法人トーマツ入所 平成11年3月 当社入社 総務部長 平成13年2月 当社管理部長 平成13年7月 当社取締役管理部長 平成19年5月 当社常務取締役CFO兼管理部長 平成23年5月 当社常務取締役CFO兼AI事業 担当(現任)	(注)3	744
取締役		細井 謙一	昭和43年3月18日	平成10年4月 広島経済大学経済学部助教授 平成14年4月 公益財団法人ひろしま産業振興機 構経営委員会委員(現任) 平成19年4月 広島経済大学経済学部教授(現 任) 平成24年4月 公益財団法人広島市産業振興セン ター理事(現任) 平成24年7月 当社取締役(現任)	(注)3	
監査役 (常勤)		戸田 良一	昭和36年10月13日	平成9年3月 株式会社日本合同ファイナンス (現株式会社ジャフコ)入社 平成11年8月 戸田公認会計士事務所設立 リベステ株式会社監査役(現 任) 平成12年4月 当社常勤監査役(現任) 平成18年3月 株式会社ウィーブ監査役	(注)4	270
監査役		米今 喜作	昭和10年8月10日	昭和29年4月 国税庁税務講習所広島支所入所 平成5年7月 広島国税局調査査察部長 平成6年8月 米今喜作税理士事務所設立 平成9年5月 広島交通株式会社監査役 平成12年7月 当社監査役(現任) 平成16年6月 広島交通株式会社常勤監査役(現 任)	(注)5	
監査役		小田 富美男	昭和32年8月12日	平成2年1月 株式会社ユアーズ入社 平成10年5月 小田人事・システム研究所設立 平成19年5月 株式会社丸和取締役管理本部長 平成20年7月 当社監査役(現任)	(注)6	
						15,534

(注)1 取締役細井謙一は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

2 監査役戸田良一、監査役米今喜作および監査役小田富美男は、会社法第2条第16号に定める社外監査役でありま
す。

3 任期は、平成24年4月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年4月期に係る定時株主総会終結の時まで
であります。

4 任期は、平成21年4月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年4月期に係る定時株主総会終結の時まで
であります。

5 任期は、平成23年4月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年4月期に係る定時株主総会終結の時まで
であります。

6 任期は、平成24年4月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年4月期に係る定時株主総会終結の時まで
であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

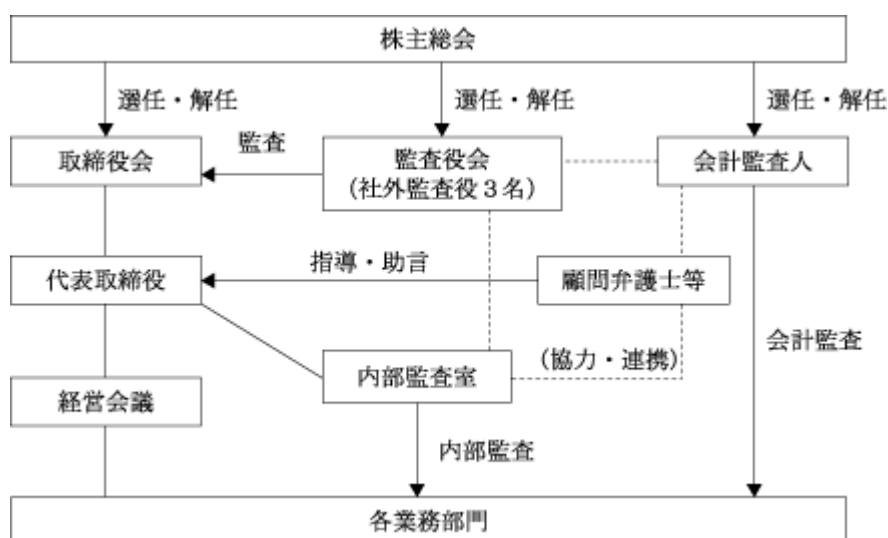
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、継続的に企業価値を増大させ、社会から信頼される会社になる上で、経営の健全性、透明性を高め、経営環境の変化に適切かつ迅速に対応できる体制を構築することであり、

社会から信頼される会社になるため、株主はもちろんのこと、従業員、顧客、取引先、地域社会など全てのステークホルダーを重要視しております。

そのために、コーポレート・ガバナンスの向上やコンプライアンスの強化は、当社の経営上の重要な課題であると認識しており、会社を構成する人員全てがステークホルダーに対して、どのように行動するべきかを共有し、浸透させる体制構築を目指しております。

会社の機関の内容および内部統制システムの整備状況



イ 取締役会

取締役会は、平成24年4月30日現在取締役3名より構成されており、会社の経営方針、経営戦略、事業計画、重要な財産の取得及び処分、重要な組織及び人事に関する意思決定機関、取締役の職務執行の監督機関として、毎月1回開催し、必要に応じて随時開催しております。なお、平成24年7月27日開催の定時株主総会におきまして、社外取締役1名が選任され、コーポレートガバナンス体制の更なる強化を図っております。その結果、本報告書提出日現在、取締役会は、社外取締役1名を含む取締役4名より構成されております。

ロ 経営会議

経営会議は、取締役、常勤監査役に加え、各部門長により構成されており、迅速な経営判断を行うために、取締役会の意思決定を要する事項の事前審査を行うとともに、取締役会から委譲された権限の範囲内で重要事項の決定を行っております。

ハ 内部監査および監査役監査の状況

当社は監査役会制度を採用しております。監査役会は平成24年4月30日現在監査役3名から構成されており、いずれも高い専門性を有する社外監査役であり、高い独立性を確保しております。毎月

1 回監査役会を開催するほか、取締役会その他重要な会議に出席し、必要な意見の表明を行い、取締役の業務執行の監査を行っております。

なお、常勤監査役戸田良一は、独立役員であり、公認会計士としての専門知識を有し、また経営管理についても造詣が深いことから、独立した立場で高い経営監視機能を発揮しております。また、監査役米今喜作は、税理士としての専門知識を有し、また広く経営全般のアドバイス経験も豊富であります。監査役小田富美男は、人事、労務の分野での専門知識が豊富であり、また異業種での管理部門担当取締役も経験しております。いずれの監査役も、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

また、内部監査は、内部監査室（専任1名）として独立させることで権限を強化し、社長直轄の組織として、業務全体にわたる内部監査を実施し、業務の改善に向け具体的な助言、勧告を行っております。内部監査室専任者は公認会計士の資格を有しており、高い専門性のもと有効な内部監査が機能していると考えております。

監査にあたって監査役と内部監査室は、緊密な連携を保ち、会計監査人との意見交換、情報交換を行い、監査の実効性及び効率性の向上を図っております。また、内部監査室は、内部統制実施部門の自己点検結果を踏まえ、内部監査を実施し、内部監査の実施結果を監査役及び会計監査人に定期的に報告しております。

二 社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は1名で、当社の社外監査役は3名であります。社外取締役および社外監査役の当社株式の所有状況は、「5 [役員の状況]」に記載のとおりであり、人的関係、取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役および社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準および方針は定められておりませんが、選任にあたっては証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

当社は平成24年7月27日開催の定時株主総会におきまして、社外取締役1名が選任され、コーポレートガバナンス体制の更なる強化を図っております。

監査役監査は、監査役3名全員を専門性の高い社外監査役とし、年度監査役監査計画に基づき、取締役会など重要な会議への出席や重要書類の閲覧などによって、独立性の高い立場から専門性を生かした経営の監視を行っております。また、必要に応じて、内部監査室や会計監査人、顧問弁護士と連携し、効率的かつ有効な監査を実施しております。

ホ 会計監査の状況

会計監査については、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結しており、定期的な監査のほか、会計上の課題について随時相談しアドバイスを受けております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は以下のとおりであり、この他、随時公認会計士4名程度、その他3名程度の補助者が監査業務に携わっております。

指定有限責任社員 業務執行社員 世良 敏昭
指定有限責任社員 業務執行社員 宮本 芳樹
(継続監査年数はともに7年以内であります。)

リスク管理体制の整備状況

リスク管理体制およびコンプライアンス体制については、代表取締役社長を委員長とし、経営会議メンバーを委員とする「コンプライアンス・リスク管理委員会」を立ち上げ、毎月1回開催し、リスクに

関する情報の収集、評価を行うとともに、コンプライアンス規範およびリスク管理規程の整備・運用や従業員への教育を随時進めております。また、適宜顧問弁護士に相談し、コンプライアンスの強化に努めております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	83,940	83,940				3
社外監査役	9,474	9,474				3

ロ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の基本報酬につきましては、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、個々の役員の職責や貢献、会社の業績等を勘案して決定しており、決定方法は、取締役については取締役会の決議、監査役については監査役会の決議によっております。

役員の退職慰労金につきましては、常勤役員を対象とし、在任中の功労に応じて支給する方針であります。そのため、支給金額の上限の目安となる算定基準は設けているものの、会社の業績動向により、その金額は減額されたり、場合によっては支払われないこともあります。その決定は、取締役会決議または監査役会決議を経て、株主総会の決議を受けるものとします。

また、役員のストック・オプション、賞与につきましては、業績動向等によりまして、取締役会決議または監査役会決議を経て、株主総会の決議を受けるものとします。

取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨定款に定めております。

取締役選任の決議要件

当社は、株主総会の取締役選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ロ 中間配当

当社は、中間配当について、株主への利益還元を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって毎年10月31日を基準日として中間配当ができる旨を定款に定めております。

八 取締役および監査役の責任免除

当社は、取締役および監査役の責任免除について、取締役および監査役が期待される役割を十分に発揮することを可能とするため、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議によって取締役（取締役であった者も含む。）および監査役（監査役であった者も含む。）の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除できる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 1 銘柄
貸借対照表計上額の合計額 32,500千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社広島銀行	100,000	35,300	当社の取引銀行として良好な関係を保ち、財務活動をより円滑に推進するためであります

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社広島銀行	100,000	32,500	当社の取引銀行として良好な関係を保ち、財務活動をより円滑に推進するためであります

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
13,000		13,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案の上で決定しております。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成23年5月1日から平成24年4月30日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、同法人が開催する研修等に参加し、情報収集に努め、社内でも共有しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,144,449	1,434,842
受取手形	1,636	1,763
売掛金	521,963	502,136
商品及び製品	92,935	82,137
原材料	45,754	40,456
仕掛品	8,892	13,579
前払費用	15,501	15,730
繰延税金資産	73,637	67,835
その他	718	2,585
貸倒引当金	7,532	6,432
流動資産合計	1,897,957	2,154,634
固定資産		
有形固定資産		
建物	¹ 663,732	¹ 680,497
減価償却累計額	180,338	204,778
建物（純額）	483,393	475,718
構築物	12,451	13,830
減価償却累計額	5,890	5,955
構築物（純額）	6,560	7,875
機械及び装置	716,162	745,966
減価償却累計額	579,101	479,440
機械及び装置（純額）	137,061	266,526
車両運搬具	-	7,968
減価償却累計額	-	398
車両運搬具（純額）	-	7,569
工具、器具及び備品	278,499	281,368
減価償却累計額	218,210	232,786
工具、器具及び備品（純額）	60,288	48,581
土地	¹ 370,758	¹ 370,758
建設仮勘定	-	4,065
有形固定資産合計	1,058,062	1,181,095
無形固定資産		
特許出願権等	57,917	45,934
ソフトウェア	182,568	192,697
その他	15,172	4,305
無形固定資産合計	255,658	242,937

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	35,300	32,500
出資金	10	10
従業員に対する長期貸付金	290	-
長期前払費用	2,000	1,991
固定化営業債権等	7,510	6,874
繰延税金資産	48,708	32,922
保険積立金	61,169	64,066
敷金及び保証金	41,055	59,035
その他	1,375	1,375
貸倒引当金	7,513	6,874
投資その他の資産合計	189,905	191,900
固定資産合計	1,503,627	1,615,933
資産合計	3,401,584	3,770,568
負債の部		
流動負債		
買掛金	77,129	86,804
1年内返済予定の長期借入金	69,000	69,000
未払金	85,048	224,984
未払費用	53,996	55,226
未払法人税等	178,000	133,200
未払消費税等	23,931	17,242
前受金	10,875	11,922
預り金	9,034	9,186
賞与引当金	110,300	108,600
その他	-	1,673
流動負債合計	617,316	717,840
固定負債		
長期借入金	77,723	8,723
退職給付引当金	12,789	9,385
その他	-	6,274
固定負債合計	90,512	24,383
負債合計	707,829	742,223

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金		
資本準備金	606,585	606,585
資本剰余金合計	606,585	606,585
利益剰余金		
利益準備金	1,693	1,693
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,708,071	2,055,353
利益剰余金合計	1,709,764	2,057,046
自己株式	122,549	122,549
株主資本合計	2,684,100	3,031,381
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,131	3,037
評価・換算差額等合計	1,131	3,037
新株予約権	10,787	-
純資産合計	2,693,755	3,028,344
負債純資産合計	3,401,584	3,770,568

【損益計算書】

(単位：千円)

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
売上高		
役務収益	1,388,457	1,447,209
製品売上高	2,526,004	2,403,927
商品売上高	582,856	634,321
売上高合計	4,497,319	4,485,458
売上原価		
役務原価	538,117	572,325
製品売上原価		
製品期首たな卸高	5,286	5,140
当期製品製造原価	1,273,041	1,132,490
合計	1,278,327	1,137,631
製品他勘定振替高	¹ 27,412	¹ 27,422
製品期末たな卸高	5,140	7,444
製品売上原価	1,245,774	1,102,765
商品売上原価		
商品期首たな卸高	54,796	87,794
当期商品仕入高	437,076	429,119
合計	491,873	516,914
商品他勘定振替高	² 23,084	² 15,756
商品期末たな卸高	87,794	74,693
商品売上原価	380,993	426,465
売上原価合計	2,164,886	2,101,555
売上総利益	2,332,433	2,383,903
販売費及び一般管理費	^{3, 4} 1,598,599	^{3, 4} 1,648,560
営業利益	733,834	735,342
営業外収益		
受取利息	371	324
受取配当金	557	500
受取手数料	913	522
助成金収入	7,114	7,140
その他	706	552
営業外収益合計	9,663	9,040
営業外費用		
支払利息	2,984	1,807
為替差損	7,643	4,995
その他	406	113
営業外費用合計	11,034	6,915
経常利益	732,463	737,467

	第16期 (自 平成22年 5 月 1 日 至 平成23年 4 月30日)	第17期 (自 平成23年 5 月 1 日 至 平成24年 4 月30日)
特別利益		
新株予約権戻入益	-	10,787
特別利益合計	-	10,787
特別損失		
固定資産売却損	-	5 499
固定資産除却損	6 4,385	6 15,549
固定資産臨時償却費	7 27,694	-
特別損失合計	32,079	16,048
税引前当期純利益	700,383	732,206
法人税、住民税及び事業税	309,596	282,897
法人税等調整額	21,178	22,481
法人税等合計	288,417	305,379
当期純利益	411,965	426,826

【役務原価明細書】

区分	注記 番号	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)		第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	1	445,073	82.7	466,179	81.5
経費		93,043	17.3	106,145	18.5
役務原価		538,117	100.0	572,325	100.0

(脚注)

第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
1 経費の主な内訳は次のとおりであります。	1 経費の主な内訳は次のとおりであります。
支払リース料 33,581千円	支払リース料 38,691千円
地代家賃 13,936	備品消耗品費 14,794
備品消耗品費 13,140	地代家賃 13,804

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)		第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	2	564,966	44.4	500,533	44.0
労務費		471,849	37.1	457,319	40.2
経費		235,387	18.5	179,324	15.8
当期総製造費用		1,272,204	100.0	1,137,177	100.0
期首仕掛品たな卸高		9,729		8,892	
合計		1,281,933		1,146,070	
期末仕掛品たな卸高		8,892		13,579	
当期製品製造原価		1,273,041		1,132,490	

(脚注)

第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
1 原価計算の方法 総合原価計算を採用しております。	1 原価計算の方法 同左
2 経費の主な内訳は次のとおりであります。	2 経費の主な内訳は次のとおりであります。
減価償却費 150,192千円	減価償却費 99,195千円
保守料 35,999	保守料 24,411
水道光熱費 19,418	水道光熱費 19,807
備品消耗品費 7,487	備品消耗品費 11,493
旅費交通費 4,995	外注加工費 6,551

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	490,300	490,300
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	490,300	490,300
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	606,585	606,585
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	606,585	606,585
資本剰余金合計		
当期首残高	606,585	606,585
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	606,585	606,585
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	1,693	1,693
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,693	1,693
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,370,974	1,708,071
当期変動額		
剰余金の配当	74,868	79,545
当期純利益	411,965	426,826
当期変動額合計	337,097	347,281
当期末残高	1,708,071	2,055,353
利益剰余金合計		
当期首残高	1,372,667	1,709,764
当期変動額		
剰余金の配当	74,868	79,545
当期純利益	411,965	426,826
当期変動額合計	337,097	347,281
当期末残高	1,709,764	2,057,046
自己株式		
当期首残高	74,644	122,549
当期変動額		
自己株式の取得	47,905	-
当期変動額合計	47,905	-
当期末残高	122,549	122,549

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
株主資本合計		
当期首残高	2,394,908	2,684,100
当期変動額		
剰余金の配当	74,868	79,545
当期純利益	411,965	426,826
自己株式の取得	47,905	-
当期変動額合計	289,191	347,281
当期末残高	2,684,100	3,031,381
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	833	1,131
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,965	1,905
当期変動額合計	1,965	1,905
当期末残高	1,131	3,037
評価・換算差額等合計		
当期首残高	833	1,131
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,965	1,905
当期変動額合計	1,965	1,905
当期末残高	1,131	3,037
新株予約権		
当期首残高	10,787	10,787
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	10,787
当期変動額合計	-	10,787
当期末残高	10,787	-
純資産合計		
当期首残高	2,406,529	2,693,755
当期変動額		
剰余金の配当	74,868	79,545
当期純利益	411,965	426,826
自己株式の取得	47,905	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,965	12,692
当期変動額合計	287,225	334,588
当期末残高	2,693,755	3,028,344

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	第16期 (自 平成22年 5 月 1 日 至 平成23年 4 月30日)	第17期 (自 平成23年 5 月 1 日 至 平成24年 4 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	700,383	732,206
減価償却費	276,418	231,898
固定資産臨時償却費	27,694	-
貸倒引当金の増減額（ は減少）	2,116	273
賞与引当金の増減額（ は減少）	5,300	1,700
退職給付引当金の増減額（ は減少）	655	3,404
受取利息及び受取配当金	929	824
支払利息	2,984	1,807
為替差損益（ は益）	1	26
新株予約権戻入益	-	10,787
固定資産売却損益（ は益）	-	499
固定資産除却損	4,385	15,549
売上債権の増減額（ は増加）	10,072	18,323
たな卸資産の増減額（ は増加）	26,291	11,409
仕入債務の増減額（ は減少）	16,367	9,674
未払消費税等の増減額（ は減少）	11,486	6,689
その他	11,894	33,940
小計	942,899	1,032,202
利息及び配当金の受取額	891	816
利息の支払額	2,868	1,724
法人税等の支払額	298,529	327,278
営業活動によるキャッシュ・フロー	642,393	704,016
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	500,000
有形固定資産の取得による支出	66,913	166,916
有形固定資産の売却による収入	-	250
無形固定資産の取得による支出	139,405	76,899
貸付金の回収による収入	300	300
その他	3,286	21,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	209,305	764,619
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	79,024	69,000
配当金の支払額	74,905	79,558
自己株式の取得による支出	48,052	-
その他	-	418
財務活動によるキャッシュ・フロー	201,982	148,977
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	26
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	231,103	209,606
現金及び現金同等物の期首残高	913,346	1,144,449
現金及び現金同等物の期末残高	1,144,449	934,842

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、原材料、仕掛品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～39年

機械及び装置 2～10年

工具、器具及び備品 3～8年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

特許出願権等 5年

ソフトウェア（自社利用分）5年

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース期間は5年であります。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職により支給する退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

6 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金および取得日から3か月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的投資からなっております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(2) リース取引会計基準の改正前の所有権移転外ファイナンス・リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、平成20年4月30日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しておりません。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
建物	70,078千円	67,973千円
土地	75,992	75,992
計	146,070	143,965

上記に対応する債務

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
1年内返済予定の長期借入金	18,000千円	18,000千円
長期借入金	19,500	1,500
計	37,500	19,500

(第16期)

なお、建物及び土地に対する根抵当権極度額は、180,000千円であります。

(第17期)

なお、建物及び土地に対する根抵当権極度額は、180,000千円であります。

(損益計算書関係)

1 製品他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	第16期 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	第17期 (自 平成23年5月1日 至 平成24年4月30日)
販売費及び一般管理費	27,412千円	27,422千円

2 商品他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	第16期 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	第17期 (自 平成23年5月1日 至 平成24年4月30日)
有形固定資産	9,918千円	3,075千円
役務原価	9,696	5,725
販売費及び一般管理費	3,140	6,955
その他	328	
計	23,084	15,756

3 (第16期)

販売費に属する費用のおおよその割合は24%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は76%であります。

(第17期)

販売費に属する費用のおおよその割合は21%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は79%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
販売手数料	82,302千円	71,658千円
広告宣伝費	178,309	148,239
発送配達費	83,501	82,288
貸倒引当金繰入額	2,030	177
役員報酬	92,064	93,414
給与手当	360,918	365,668
賞与引当金繰入額	45,479	46,131
退職給付費用	11,723	13,401
減価償却費	111,665	107,378
支払手数料	87,230	84,482
研究開発費	46,091	93,482

4 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
	46,091千円	93,482千円

5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
機械及び装置	千円	499千円

6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
建物	千円	1,449千円
構築物		696
機械及び装置	811	10,274
工具、器具及び備品	2,918	865
ソフトウェア	655	2,263

7 (第16期)

固定資産臨時償却費は、写真集発注用ソフトウェアのバージョンアップに伴い、旧バージョンのソフトウェアの償却年数を見直したことによるものであります。

(株主資本等変動計算書関係)

第16期(自 平成22年 5 月 1 日 至 平成23年 4 月30日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	43,660			43,660

2 自己株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	878	916		1,794

(変動事由の概要)

平成22年 9 月 7 日の取締役会決議による自己株式の取得 916株

3 新株予約権等に関する事項

内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
		当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
ストック・オプションとしての新株予約権						10,787
合計						10,787

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年 7 月23日 定時株主総会	普通株式	74,868	1,750	平成22年 4 月30日	平成22年 7 月26日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 7 月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	79,545	1,900	平成23年 4 月30日	平成23年 7 月25日

第17期(自 平成23年 5 月 1 日 至 平成24年 4 月30日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	43,660			43,660

2 自己株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	1,794			1,794

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 7月22日 定時株主総会	普通株式	79,545	1,900	平成23年 4月30日	平成23年 7月25日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 7月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	83,732	2,000	平成24年 4月30日	平成24年 7月30日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	第16期 (自 平成22年 5 月 1 日 至 平成23年 4 月30日)	第17期 (自 平成23年 5 月 1 日 至 平成24年 4 月30日)
現金及び預金	1,144,449千円	1,434,842千円
預入期間が3か月を超える定期預金		500,000
現金及び現金同等物	1,144,449	934,842

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産 車両運搬具

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2 リース取引開始日が平成20年4月30日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
(単位：千円)

	第16期 (平成23年4月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	6,801	5,781	1,020

(単位：千円)

	第17期 (平成24年4月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具			

未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
1年以内	1,173	
合計	1,173	

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：千円)

	第16期 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	第17期 (自 平成23年5月1日 至 平成24年4月30日)
支払リース料	1,564	1,173
減価償却費相当額	1,360	1,020
支払利息相当額	204	204

減価償却相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、定額法を採用しております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期の定期預金など安全性の高い金融資産に限定し、資金調達については金融機関からの借入を基本としております。また、デリバティブ取引や投機的な取引は行わない方針であります。今後、リスクを回避するためにデリバティブ取引を行う必要が生じた場合には、規程等の整備を行った上で実行する方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外向け販売から生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、必要に応じて従業員等に対し貸付を行っており、貸付金は信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金等は、全て1年以内の支払期日であります。借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。借入金は、金利の変動リスクに晒されております。また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権及び貸付金について、管理部が主要な取引先等の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理し、営業部門と連携し、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建ての営業債権については、ほぼ2か月以内に決済されることから、為替の変動リスクをヘッジしておりません。

投資有価証券については、発行体(取引先企業)の財務状況等の把握に努め、四半期ごとの決算で適正な評価を行っております。

借入金については、固定金利による調達により、金利の変動リスクを回避しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、管理部が月次に資金繰状況を管理するとともに、手許流動性を一定水準以上維持することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

特にありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

第16期(平成23年4月30日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,144,449	1,144,449	
(2) 売掛金	521,963	521,963	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	35,300	35,300	
資産計	1,701,713	1,701,713	
(1) 買掛金	(77,129)	(77,129)	
(2) 未払法人税等	(178,000)	(178,000)	
(3) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金を含む)	(146,723)	(146,863)	(140)
負債計	(401,852)	(401,993)	(140)

第17期(平成24年4月30日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,434,842	1,434,842	
(2) 売掛金	502,136	502,136	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	32,500	32,500	
資産計	1,969,479	1,969,479	
(1) 買掛金	(86,804)	(86,804)	
(2) 未払法人税等	(133,200)	(133,200)	
(3) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金を含む)	(77,723)	(77,826)	(103)
負債計	(297,727)	(297,830)	(103)

(注1)金融商品の時価の算定方法及びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価は、取引所の価格によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)

長期借入金の時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

該当事項はありません。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第16期(平成23年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	1,139,113			
売掛金	521,963			
合計	1,661,076			

第17期(平成24年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	1,429,999			
売掛金	502,136			
合計	1,932,135			

(注3) 長期借入金の決算日後の返済予定額

第16期(平成23年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金(1年内返済 予定の長期借入金を含 む)	69,000	69,000	8,723			
合計	69,000	69,000	8,723			

第17期(平成24年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金(1年内返済 予定の長期借入金を含 む)	69,000	8,723				
合計	69,000	8,723				

(有価証券関係)

その他有価証券で時価のあるもの

第16期(平成23年4月30日)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式			
債券			
その他			
小計			
貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	35,300	37,200	1,900
債券			
その他			
小計	35,300	37,200	1,900
合計	35,300	37,200	1,900

第17期(平成24年4月30日)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式			
債券			
その他			
小計			
貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	32,500	37,200	4,700
債券			
その他			
小計	32,500	37,200	4,700
合計	32,500	37,200	4,700

[次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

確定拠出型年金制度を採用しておりますが、一部の従業員については、退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度を採用しております。

2 退職給付債務に関する事項

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
退職給付債務	12,789千円	9,385千円
退職給付引当金	12,789	9,385

3 退職給付費用に関する事項

	第16期 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	第17期 (自 平成23年5月1日 至 平成24年4月30日)
イ.勤務費用	690千円	3,349千円
ロ.確定拠出年金への掛金支払額	28,240	29,812
退職給付費用	28,931	33,161

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しており、当事業年度末における自己都合要支給額を退職給付債務としております。

(ストック・オプション等関係)

1 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	第16期 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	第17期 (自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月30日)
新株予約権戻入益		10,787千円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成19年ストック・オプション (第1回)	平成19年ストック・オプション (第2回)
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 2名	当社従業員10名
株式の種類及び付与数	普通株式 100株	普通株式 150株
付与日	平成19年 2月15日	平成19年 2月15日
権利確定条件	<p>新株予約権者が権利行使時において当社の取締役または監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役または監査役を任期満了で退任した場合、その他取締役会が特別に認める場合はその限りではない。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。</p> <p>この他、新株予約権の行使の条件は、当社取締役会決議に基づき当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	<p>新株予約権者が、権利行使時において当社の取締役、監査役または従業員の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役、または監査役を任期満了で退任した場合、定年で退職した場合、その他取締役会が特別に認める場合はその限りではない。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。</p> <p>この他、新株予約権の行使の条件は、当社取締役会決議に基づき当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	自 平成19年 2月15日 至 平成21年 2月15日	自 平成19年 2月15日 至 平成21年 2月15日
権利行使期間	自 平成21年 2月16日 至 平成24年 2月15日	自 平成21年 2月16日 至 平成24年 2月15日

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成19年ストック・オプション (第1回)	平成19年ストック・オプション (第2回)
権利確定前		
期首(株)		
付与(株)		
失効(株)		
権利確定(株)		
未確定残(株)		
権利確定後		
期首(株)	100	150
権利確定(株)		
権利行使(株)		
失効(株)	100	150
未行使残(株)		

単価情報

	平成19年ストック・オプション (第1回)	平成19年ストック・オプション (第2回)
権利行使価格(円)	120,000	120,000
行使時平均株価(円)		
付与日における公正な評価単価(円)	43,149	43,149

3 ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第16期 (平成23年4月30日)	第17期 (平成24年4月30日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	44,598千円	41,001千円
貸倒引当金	1,995	1,560
未払事業税	13,999	9,991
未払事業所税	2,269	2,133
未払販売手数料	580	473
未払社会保険料	6,432	6,089
たな卸資産評価損	2,534	3,010
未払確定拠出年金	1,018	993
貯蔵品	208	694
未払修繕費	-	1,887
繰延税金資産(流動)合計	73,637	67,835
繰延税金資産の純額	73,637	67,835
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	5,171	3,366
ソフトウェア	30,749	17,491
投資有価証券評価損	9,217	8,064
貸倒引当金	2,802	2,339
その他有価証券評価差額金	768	1,662
繰延税金資産(固定)合計	48,708	32,922
繰延税金資産の純額	48,708	32,922

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律および東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産の計算(ただし、平成24年5月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.4%から、回収が見込まれる期間が平成24年5月1日から平成27年4月30日までのものは37.8%、平成27年5月1日以降のものについては35.4%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が8,423千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が8,185千円増加しております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、「メモリアルデザインサービス事業」、「パーソナルパブリッシングサービス事業」及び「エアリアルイメージング事業」の三つの事業を柱とし、それぞれの事業ごとに取り扱う製品・サービスについて事業計画を立案し、展開しているため、当社は、「メモリアルデザインサービス事業」、「パーソナルパブリッシングサービス事業」及び「エアリアルイメージング事業」の三つを報告セグメントとしております。

なお、「エアリアルイメージング事業」は第16期より開始した事業であります。

「メモリアルデザインサービス事業」は、葬儀葬祭市場に対する遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力を主体としており、「パーソナルパブリッシングサービス事業」は、デジタル写真とオンデマンド印刷の融合を目指し、一般消費者からプロフェッショナル写真家までをターゲットに個人向け写真集の作成、販売を主体としております。また、「エアリアルイメージング事業」は、画像映像の新しい表現方法として、空中結像技術を研究しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
第16期(自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	財務諸表 計 上額 (注) 2
	メモリアルデザ インサービス事 業	パーソナルパブ リッシングサー ビス事業	エアリアルイ メージング事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,976,722	2,520,597		4,497,319		4,497,319
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	1,976,722	2,520,597		4,497,319		4,497,319
セグメント利益 又は損失()	654,410	423,374	6,490	1,071,294	337,460	733,834
その他の項目						
減価償却費	25,665	232,573	2,143	260,381	16,037	276,418

(注) 1 セグメント利益の調整額 337,460千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに
帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、損益計算書の営業利益と一致しております。

3 セグメント資産及び負債については、各報告セグメントへの配分を行っていないため記載しておりません。

第17期(自 平成23年5月1日 至 平成24年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	財務諸表 計 上額 (注) 2
	メモリアルデザ インサービス事 業	パーソナルパブ リッシングサー ビス事業	エアリアルイ メージング事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,091,102	2,386,409	7,946	4,485,458		4,485,458
セグメント間の内部 売上高又は振替高						-
計	2,091,102	2,386,409	7,946	4,485,458		4,485,458
セグメント利益 又は損失()	701,093	448,564	72,760	1,076,897	341,554	735,342
その他の項目						
減価償却費	24,562	179,844	12,492	216,898	14,999	231,898

(注) 1 セグメント利益の調整額 341,554千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに
帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、損益計算書の営業利益と一致しております。

3 セグメント資産及び負債については、各報告セグメントへの配分を行っていないため記載しておりません。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の開示をしているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	第16期 (自平成22年5月1日 至平成23年4月30日)	第17期 (自平成23年5月1日 至平成24年4月30日)
1株当たり純資産額	640円85銭	723円34銭
1株当たり当期純利益金額	97円37銭	101円95銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 当社は、平成24年5月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

3 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

項目	第16期	第17期
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	2,693,755	3,028,344
貸借対照表の純資産の部の合計額から控除する金額(千円) 新株予約権	10,787	
普通株式に係る純資産額(千円)	2,682,968	3,028,344
普通株式の発行済株式数(株)	4,366,000	4,366,000
普通株式の自己株式数(株)	179,400	179,400
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	4,186,600	4,186,600

2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額

項目	第16期	第17期
損益計算書上の当期純利益(千円)	411,965	426,826
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	411,965	426,826
普通株式の期中平均株式数(株)	4,230,761	4,186,600
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	平成19年1月31日取締役会決議によるストック・オプション(第1回) (株式の数100株) 平成19年1月31日取締役会決議によるストック・オプション(第2回) (株式の数150株)	

(会計方針の変更)

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号平成22年6月30日)を適用しております。この適用により、貸借対照表日後に行った株式分割は、前事業年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前事業年度の1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、以下のとおりです。

1株当たり純資産額 64,084円66銭
1株当たり当期純利益金額 9,737円39銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額

(重要な後発事象)

(株式の分割および単元株制度の採用)

当社は、平成24年3月27日開催の取締役会の決議に基づき、平成24年5月1日をもって、株式の分割を行うとともに、単元株制度を採用いたしました。

1. 株式分割および単元株制度採用の目的

平成19年11月27日に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、当社株式の売買単位を100株とするため、株式の分割を実施するとともに、100株を1単元とする単元株制度を採用しました。

2. 株式分割の割合：普通株式1株を100株に分割いたしました。

3. 単元株制度の採用：1単元の株式の数を100株といたしました。

4. 株式分割および単元株制度採用の時期：平成24年5月1日を効力発生日としております。

なお、これによる影響については、「1株当たり情報に関する注記」に記載しております。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価 証券	その他 有価証券	株式会社広島銀行	100,000	32,500
		小計	100,000	32,500
計		100,000	32,500	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	663,732	24,780	8,015	680,497	204,778	31,006	475,718
構築物	12,451	3,079	1,700	13,830	5,955	1,068	7,875
機械及び装置	716,162	217,685	187,882	745,966	479,440	77,197	266,526
車両運搬具		7,968		7,968	398	398	7,569
工具、器具及び備品	278,499	27,346	24,477	281,368	232,786	38,187	48,581
土地	370,758			370,758			370,758
建設仮勘定		14,952	10,887	4,065			4,065
有形固定資産計	2,041,604	295,813	232,962	2,104,455	923,359	147,858	1,181,095
無形固定資産							
特許出願権等	59,914			59,914	13,979	11,982	45,934
ソフトウェア	393,779	84,325	88,748	389,356	196,658	71,933	192,697
その他	15,172	57,148	68,015	4,305			4,305
無形固定資産計	468,866	141,474	156,764	453,575	210,638	83,916	242,937
長期前払費用	3,278	1,197	1,083	3,392	1,401	123	1,991
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	本社	印刷機	185,268千円
ソフトウェア		業務向け写真集編集ソフト開発	38,759
		業務向け写真集受注システム開発	18,260
無形固定資産「その他」		業務向け写真集編集ソフト開発	32,842
		業務向け写真集受注システム開発	18,375

2 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	本社	印刷機	183,821千円
ソフトウェア		償却期間満了	47,804
無形固定資産「その他」		ソフトウェア勘定への振替	68,015

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金	69,000	69,000	1.57	
1年以内に返済予定のリース債務		1,673		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	77,723	8,723	1.54	平成25年5月27日～ 平成25年6月30日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)		6,274		平成29年1月17日
その他有利子負債				
合計	146,723	85,671		

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	8,723			
リース債務	1,673	1,673	1,673	1,254

3 1年以内に返済予定の長期借入金のうち10,800千円および長期借入金のうち1,523千円は、広島市先端科学技術研究開発資金融資制度に基づく、無利息の借入であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	15,045	6,284	1,916	6,106	13,306
賞与引当金	110,300	108,600	110,300		108,600

(注) 貸倒引当金の当期減少額「その他」のうち、5,333千円は一般債権の貸倒実績率による洗替額であり、773千円は貸倒懸念債権の個別見積による一部戻入額であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

a 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	4,843
預金	
当座預金	5,306
普通預金	224,245
別段預金	447
定期預金	1,200,000
小計	1,429,999
合計	1,434,842

b 受取手形

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
有限会社宇南山商事	950
写真のミムラ	600
株式会社南都公益社	212
合計	1,763

ロ 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成24年5月満期	812
平成24年6月満期	950
合計	1,763

c 売掛金

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
ペリトランス株式会社	36,590
鹿児島県経済農業協同組合連合会	12,250
ヤマトフィナンシャル株式会社	10,225
有限会社レーヴ青山	9,288
ひろぎんリース株式会社	8,053
その他	425,728
合計	502,136

ロ 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2} - \frac{(B)}{366}$
521,963	4,697,625	4,717,452	502,136	90.4%	39.9

(注) 上記金額には消費税等が含まれております。

d 商品及び製品

区分	金額(千円)
商品	
システム機器	34,201
サプライ用品	40,491
小計	74,693
製品	
写真集	5,927
A Iプレート	1,516
小計	7,444
合計	82,137

e 原材料

区分	金額(千円)
印刷材料	6,638
製本材料	24,490
その他	9,326
合計	40,456

f 仕掛品

区分	金額(千円)
写真集	13,579
合計	13,579

負債の部

a 買掛金

相手先	金額(千円)
広島洋紙株式会社	15,938
東洋インキ中四国株式会社	11,141
エプソン販売株式会社	9,070
有限会社サンリボン	6,944
ダイヤモンド株式会社	6,416
その他	37,293
合計	86,804

b 未払金

区分	金額(千円)
日本ヒューレット・パカード株式会社	92,160
株式会社恒デザイン事務所	12,706
株式会社大塚商会	9,766
株式会社内田洋行	8,795
ヤマト運輸株式会社	5,881
その他	95,672
合計	224,984

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高 (千円)	1,059,900	2,124,840	3,369,543	4,485,458
税引前 四半期(当期)純利益 (千円)	163,220	304,911	608,329	732,206
四半期(当期)純利益 (千円)	95,349	178,020	353,247	426,826
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	22.77	42.52	84.38	101.95

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	22.77	19.75	41.85	17.58

(注) 平成24年5月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。当事業年度期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	5月1日から4月30日まで
定時株主総会	7月中
基準日	4月30日
剰余金の配当の基準日	10月31日、4月30日
1単元の株式数	
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	
公告掲載方法	当社の公告は電子公告の方法により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は下記の当社ホームページに掲載する。 ホームページアドレス http://www.asukanet.co.jp
株主に対する特典	毎年1回、4月30日現在の株主に対し、自社サービス（マイブック）の割引利用券を以下の基準により贈呈する。 100株以上400株以下 1,000円割引利用券2枚 500株以上 2,000円割引利用券3枚

(注) 1 平成24年3月27日開催の取締役会決議により、平成24年5月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行い、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しております。

2 単元未満株式の買取りにつきましては、平成24年5月1日以降、次のとおりとなっております。

取扱場所（特別口座）

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

株主名簿管理人（特別口座）

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

買取手数料 無料

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書	事業年度 (第16期)	自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日	平成23年7月25日 中国財務局長に提出
(2)	内部統制報告書及びその添付書類	事業年度 (第16期)	自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日	平成23年7月25日 中国財務局長に提出
(3)	四半期報告書、四半期報告書の確認書	(第17期第1四半期)	自 平成23年5月1日 至 平成23年7月31日	平成23年9月14日 中国財務局長に提出
		(第17期第2四半期)	自 平成23年8月1日 至 平成23年10月31日	平成23年12月13日 中国財務局長に提出
		(第17期第3四半期)	自 平成23年11月1日 至 平成24年1月31日	平成24年3月14日 中国財務局長に提出
(4)	臨時報告書	企業内容の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使結果)の規定に基づく臨時報告書		平成23年7月25日 中国財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年7月27日

株式会社アスカネット
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 世 良 敏 昭

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 宮 本 芳 樹

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスカネットの平成23年5月1日から平成24年4月30日までの第17期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アスカネットの平成24年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社アスカネットの平成24年4月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社アスカネットが平成24年4月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。